



がん登録の現場から

■ 当院のがん登録の歴史と精度管理

当院は、1975年から地域がん登録に参加し、2012年より院内がん登録を開始しました。国立がん研究センターの研修を修了した診療情報管理士が、電子カルテの情報をもとに正確かつ適切に登録を行い、さらに院内がん登録実務者の上位資格である「中級」を取得した担当者が業務を担うことで、精度と信頼性を確保しています。



■ がん登録の意義と診療への活用

がん登録は、がん診療の実態把握や治療の質の向上に不可欠です。収集したデータは、法令および個人情報保護方針に則り、厳正に管理され、より良い医療の提供へと活用されています。また、診療データの収集・分析を通じて、がん診療の質を高めるとともに、大阪府や国のがん対策に寄与し、未来の医療を支える役割を果たしています。



■ がん登録がひらく未来の医療



診療データの収集・分析を通じて、蓄積された情報は研究や政策立案の基盤となり、予防策や治療法の開発を促進します。これにより、がん登録は医療の進化を支え、地域社会の健康向上に貢献します。

また、国際基準（UICC）に沿って診療データを分類・比較することで、各国の治療情報を活用し、より良い治療法の確立や希少がん研究の進展を促進します。これらの取り組みが医療の未来を支え、患者さんに希望を届けます。

■ がん登録を支える診療情報管理士

診療情報管理士は、患者さんの診療記録を適切に管理し、医療の安全と質の向上に貢献する専門職です。電子カルテを活用し、診療情報を整理・分析することで、精度の高い医療の提供を支えています。また、院内がん登録の情報管理を通じて、がん診療の質を高め、医療を支え、未来へつなぐ情報の架け橋となっています。「確かな情報が患者さんの未来をひらく」その想いを胸に、日々業務に取り組んでいます。

診療情報管理士/院内がん登録実務中級者認定 梅本 一美

がん登録

